

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 15 日現在

機関番号：64401

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24242037

研究課題名(和文) 世界の中のアフリカ史の再構築

研究課題名(英文) Reconstruction of African History in Relation to the Global History

研究代表者

竹沢 尚一郎 (Takezawa, Shoichiro)

国立民族学博物館・民族文化研究部・教授

研究者番号：10183063

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 33,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、欧米諸国に比して遅れているわが国のアフリカ史研究の推進のために実施された。それに当たり、アフリカ史を他地域との交流の観点から明らかにすること、考古学発掘をはじめとする一次資料の入手に主眼を置いた。本研究により、西アフリカで10世紀の巨大建造物を発掘したが、これはサハラ以南アフリカ最古の王宮と考えられ、交易やイスラームの進展について大きな寄与をなした。その他、13-14世紀の東・西・南部アフリカ各地で社会経済的発展が実現されたこと、国家をもたない社会における歴史記述の可能性が明らかになったことなどの成果があった。

これらの成果をもとに、「アフリカ史叢書」の発刊の準備を進めている。

研究成果の概要(英文)：This research project aims at reconstructing the African History that is relatively underdeveloped in Japan. In order to realize this, the project organized many study meetings with Japanese and overseas scholars who are specialized in other subjects than African History. The basic plan of the project is to attach more importance to the changes and developments of material culture than to the political vicissitudes of the continent. It procures primary historical materials through the visit of the archives or the archeological excavations. It could unearth big buildings totally made of stone which can be the trace of a royal palace of the 10th century. It could also demonstrate intense manufacturing activities before the arrival of Islam in the continent.

As the project has succeeded in finding new date on the past events in Africa and a new method to write societies without the state, we are now preparing a series of books on the African History.

研究分野：アフリカ史

キーワード：アフリカ史 アフリカ考古学 交易史 文化史 スワヒリ世界 イスラーム 奴隷貿易 植民地支配

### 1. 研究開始当初の背景

(1) 歴史研究は当該諸社会の深い理解のための前提条件である。しかしながら、わが国のアフリカ史研究は、アフリカ史やアフリカ考古学関係の講座がどの大学にも存在しないことが示すように、きわめて立ち遅れた状況にある。このことは、欧米の多くの大学にアフリカ史講座が存在することと対照的である。

(2) アフリカ史に関しては、1970年代になされたケンブリッジ版『アフリカ史』8巻と80年代の『ユネスコ版アフリカ史』10巻が双璧をなす。しかし、これらはすでに時間を経過したこともあり、大幅な書き直しが必要とされている。

(3) 本研究は以上の課題に応えることをめざして組織されたものであり、わが国を代表するアフリカ史関係の研究者の結集により、アフリカ史研究を深化させること、最終的には数冊の『アフリカ史叢書』を完成させることをめざしておこなわれるものである。

### 2. 研究の目的

(1) 本研究の目的は、経済、政治、交易、宗教、生態、考古などの諸分野を専門とし、地域的にも北アフリカから南部アフリカにいたるアフリカ全土をカバーする研究者の結集により、わが国のアフリカ史研究を刷新・深化させることを目的としておこなわれるものである。

(2) 本研究に参加する各研究者は、各自の問題意識や研究テーマに沿って研究を遂行すると同時に、年に数回おこなわれる研究会や他領域の研究者との討論を通じて問題意識や理解を共有し、最終的に『アフリカ史叢書』を完成させることをめざす。

(3) 本研究は以上の問題関心から構想されたものであり、本研究が実現されたなら、アフリカ史研究はもちろん、文化人類学、地域研究、国際関係論、政治学、開発研究などの諸分野の一層の発展のために多大な貢献をなすとともに、とりわけ文化人類学的なアフリカ研究をさらに発展させるための基礎的資料となるはずである。

### 3. 研究の方法

(1) 本研究に実施に当たって、いくつかの基本的な方法を定めた。まず、国家の誕生や支配階級の変遷などの政治的出来事より、アフリカ各地で実現された農業、牧畜、交易、手工業などの物質文化の変化や発展を重視すること。

(2) アフリカの諸社会が有する内在的な発展力を重視しつつも、アフリカの歴史を大陸に閉ざして考察するのではなく、世界の他地域との関係性(交流、交易、支配等)において理解するよう努めること。

(3) アフリカ史記述の革新を実現するために、各国の資料館での文献調査や考古学発掘調査などを通じて、一次史料の獲得に尽力す

ること。

(4) わが国のアフリカ史研究者だけでなく、国内外の西洋史や東洋史をはじめ、政治学、経済学、社会学など他分野の研究者との合同研究会を実施して、斬新な問題意識の獲得に努めること。

### 4. 研究成果

(1) 考古学発掘により、西アフリカのニジェール川中流域の諸社会が、イスラーム文明の到達以前に農業・手工業の領域においてかなりの経済発展を実現していたことが明らかになった。これは、西アフリカの産業がイスラーム勢力によるサハラ交易と共に実現されたこととみなされてきたことに対する反証であり、世界のアフリカ史理解においてきわめて重要な発見である。

(2) おなじく考古学発掘により、西アフリカのガオ地区で、10世紀に建造された王宮と思われる大規模建造物の発掘に成功した。これは全長50メートル以上の総石造りの建造物であり、これが王宮であるとすれば、これまでにサハラ以南アフリカで発見された最古の王宮であり、西アフリカにおける交易史や文化史の領域で多大な貢献を果たすはずである。

(3) 西アフリカ、中央アフリカ、東アフリカにおける長距離交易の実態と国家の発達、及び産業の発達を比較検討することにより、13-14世紀ごろにサハラ以南アフリカの各地で国家の発達と長距離・地域間交易の発達が見られたことが確認された。これだけ異なる地域でほぼおなじ時期に社会経済的発展が実現されたことの原因は今のところ不明だが、各種のデータを比較検討することによって一定の答えを求めていく。

(4) 13-14世紀にアフリカ各地で社会経済的発展が実現されていたとすれば、16世紀以降本格化する西洋列強による奴隷貿易のアフリカへの影響についても、従来とは異なる理解がもたらされた。奴隷貿易は、後進的なアフリカに対しておこなわれた略奪行為ではなく、一定の発展能力を示していたアフリカ諸社会に対して発展の内在的能力を剥奪した蛮行とみなされた。また、おなじく奴隷貿易をおこなったイスラーム世界が、アフリカ諸社会に対して破壊的な作用をおこなわなかったことと比較するなら、西欧の拡張が世界史に何をもたらしたかに関して斬新な見方が出てくる可能性がある。

(5) 従来、歴史記述においては国家や集権的政体を中心となって記述されてきた。これに対し本研究では、儀礼や社会制度、口頭伝承、各種産業等を比較検討することにより、国家をもたなかった社会における歴史記述の可能性を見出した。こうした歴史がどこまで時間を遡ることが可能かは不明な点が多いが、新たな歴史記述の可能性を確立しつつある。

(6) 現在『アフリカ史叢書』の第1巻「世

界の中のアフリカ史」を出版するべく、編集作業を進めているところである。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 23 件)

1. Takezawa shoichiro et Mamadou Cissé, éd., *Sur la trace des grands empires : Recherches archéologiques au Mali, Etudes maliennes*, numero special, 2016, 査読有.

2. 竹沢尚一郎「世界のなかのアフリカ史」『世界史の研究』山川書店, 245:1-14, 2015, 査読無.

3. Takezawa Shoichiro & Mamadou Cisse, “Discovery of the Earliest Royal Palace in Gao and Its Implications for the History of West Africa”, *Cahiers d'études africaines*, 52(4): 813-844, 2012, 査読有.

4. Kitagawa Katsuhiko, “Japan’s Trade with West Africa in the Inter-War Period: A Study of Japanese Consular Reports”, *Kansai University Review of Economics*, 17: 1-28, 2015, 査読有.

5. Kitagawa Katsuhiko, “The Relationship between Japan and South Africa before World War II”, *Kansai University Review of Economics*, 16: 31-57, 2014, 査読有.

6. 北川勝彦「第二次世界大戦後の日本—アフリカ関係史—1950年代と1960年代を中心に—」『歴史学研究』2014-7, pp.60-71, 査読有.

7. 坂井信三「イスラーム改革運動の歴史的展開：仏領西アフリカと英領ナイジェリアの教育改革の比較から」『Radical Islamist Research Report』日本国際問題研究所, 8:1-17, 2017, 査読無.

8. 坂井信三「マリのイスラーム過激派組織FLM (Le Front de libération du Macina) の社会的背景：牧畜民の周辺化と地域社会の不安定化」『アカデミア』人文・自然科学編, 南山大学, 13:23-38, 2017, 査読有.

9. 坂井信三「ニジェール川中流域の国家形成と非形成」、『アカデミア』人文・自然科学編, 南山大学, 10:11-29, 2015, 査読有.

10. Ohtoshi Tetsuya, “Ādāt wa Taqālīd wa Mu’taqadāt Zā’irī al-Qubūr fī Miṣr: fī al-Fatra min 1100-1500”, *G. al-Bahī, Dhākira Miṣr*, 27: 76-89, 2016, 査読有.

11. 大稔哲也「グローバリゼーションの中のムスリム社会—エジプト1月25日革命とイスラームの在り方についての覚書」『多元文化』4: 17-26, 2015, 査読有.

12. 大稔哲也「アラブの風—「エジプト1月25日革命」研究の「遠近法」と「複奏化」」『史学雑誌』121(9):33-35, 2012, 査読有.

13. Hideaki Suzuki, “Baluchi Experiences under Slavery and the Slave Trade of the Gulf of Oman and the Persian Gulf, 1921-1950,” *The Journal of the Middle East and Africa*, 4(2): 205-223, 2013, 査読有.

14. 鈴木英明「ネットワークのなかの港町とそこにおける所謂「バニヤン」商人」『東洋史研究』71(4):794-766. 2013, 査読有.

15. 鈴木英明「インド洋西海域世界の可能性—海域史から世界史へ」『歴史学研究』911: 178-185, 2013, 査読有.

16. Matsuda Motoji, “Creativity of Narrative of Suffering of the Korean A-Bomb Survivors: How Reconciliation and Redress could be achieved?” 『京都社会学年報』24:1-16, 2017, 査読有.

17. Matsuda Motoji, « Communauté et violence de rue à Nairobi », *Diogenè*, 251-252 :103-117, 2016, 査読有.

18. 松田素二「現代世界における人類学的実践の困難と可能性」『文化人類学』78(1):1-25, 2013, 査読有.

[学会発表] (計 38 件)

1. Takezawa Shoichiro, “The First Kingdom of Gao and Its Relations with Asian Civilizations”, Society of Africanist Archaeologists, Université de Toulouse, 2016/06/30, Toulouse, France.

2. 竹沢尚一郎「アフリカとグローバルヒストリー—①アフリカとアジアの関係を歴史化する」『日本アフリカ学会』2016/06/04, 日本大学生産資源学部, 藤沢市.

3. Kitagawa Katsuhiko, Narratives of Consular Reports : Special Reference to Revision of the Congo Basin Treaty and Japan in the 1930s”, International Conference on Africa-Asia : A New Axis of Knowledge, Accra, Ghana, 2015/09/24.

4. Kitagawa Katsuhiko, “Africa Breaks the Chain and the Birth of Japanese Intellectuals”, Launch Symposium on Africa and Asia Entanglements in Past

and Present, STIAS, 2013/11/4, Stellenbosch, South Africa.

5. 鈴木英明「アフリカとグローバルヒストリー②沿岸部スワヒリ世界の形成」『日本アフリカ学会』2016/06/04, 日本大学生産資源学部, 藤沢市。

6. 池谷和信「アフリカとグローバルヒストリー③アフリカの環境史とグローバルヒストリー」『日本アフリカ学会』2016/06/04, 日本大学生産資源学部, 藤沢市。

7. 富永智津子「脱帝国のフェミニズム」に向けて—マウマウ戦争と植民地支配のレガシー— イギリス女性史研究会シンポジウム「植民地戦争におけるセクシュアリティとジェンダー」甲南大学東京ネットワークキャンパス, 2016/12/10, 東京。

〔図書〕(計 40 件)

1. Takezawa shoichiro et Mamadou Cissé, éd., *Sur la trace des grands empires : Recherches archéologiques au Mali, L'Harmattan*, 2017.

2. 竹沢尚一郎『西アフリカの王国を掘る：人類学から考古学へ』臨川書店, 2014.

3. 竹沢尚一郎「古王国」松田素二編 (2014) 『アフリカ社会を学ぶ人のために』世界思想社, 2014, pp.87-97.

4. 北川勝彦共編著『概説 世界経済史』I「なぜ経済史を学ぶのか」昭和堂, 2017.

5. Kitagawa, Katsuhiko & T. Motoki, eds., *Contemporary African Economies: A Changing Continent under Globalization*, African Development Bank, 2016.

6. 北川勝彦共著『アフリカ世界の歴史と文化—ヨーロッパ世界との関わり』放送大学教育振興会, 2013.

7. 坂井信三「仏領西アフリカ植民地におけるクリスチャンとムスリム：テオドール・モノとアマドゥ・ハンパテ・バ」『アジア・アフリカにおける諸宗教の関心の歴史と現状』, 上智大学アジア文化研究所, 2016, pp.19-55.

8. 坂井信三「北部ナイジェリアのムスリム・コミュニティーとイスラーム改革運動」『サハラ地域におけるイスラーム急進派の活動と資源紛争の研究：中東諸国とグローバルアクターとの相互関係の視座から』公益財団法人日本国際問題所, 2015, pp.53-74.

9. 坂井信三「マリの歴史と社会におけるトゥアレグ人の位置：生態学的適応・生業分化・

人種表象」『サハラ地域におけるイスラーム急進派の活動と資源紛争の研究：中東諸国とグローバルアクターとの相互関係の視座から』2013, pp.63-76.

10. 杉村和彦「東アフリカ農牧民から見た世界史像」石川博樹他編『食と農のアフリカ史：現代の基層に迫る』昭和堂, 2016, pp. 135-151.

11. Maghimbi, S., Sugimura Kazuhiko and D. G. Mwamfupe, eds., *Endogenous Development, Moral Economy and Globalization in Agro-Pastoral Communities in Central Tanzania*, Dar es Salaam University Press, 2016.

12. Sugimura Kazuhiko, ed., *Endogenous Development and Moral Economy in argo-pastoral Community in Central Tanzania*, (Proceedings of 5th International Conference on African Moral Economy) Fukui Prefectural University, 2013.

13. 大稔哲也「ムスリム王朝支配下のエジプトにおけるコプト・キリスト教徒の参詣・巡礼」近藤洋平編『中東の思想と社会を読み解く』東京大学中東地域研究センター, 2014, pp.171-192.

14. Tetsuya Ohtoshi & Susumu Shimazono eds., *Commemorating the Dead in a Time of Global Crisis: Egypt and Japan in 2012*, Global COE Program DALs, Graduate School of Humanities and Sociology, 2012.

15. Hideaki Suzuki ed., *Abolition as A Global Experience*, NUS Press, 2016, 312 p.

16. 鈴木英明「インド洋：海から新しい世界史は語りうるのか」羽田正編『地域史と世界史』ミネルヴァ書房, 2016, pp.78-96.

17. Hideaki Suzuki, "Circulation, Memory, Landscape: Kachchhi Bhatias in Mundra and Bhadrashwar," S. Keller and M. Pearson, eds., *Port Towns of Gujarat*, Primus Books, 2015, pp.285-304

18. Hideaki Suzuki, "To trace the ways they passed: Slave accounts in the 19th Century western Indian Ocean," Martin Klein et al. eds., *African Voices on Slavery and the Slave Trade*, Cambridge University Press, 2013, pp.307-318.

19. Gebre Yntiso, Itaru Ohta & Motoji Matsuda, eds., *African Virtues in the Pursuit of Conviviality: Exploring Local*

*Solutions in Light of Global Prescriptions.*  
LANGAA, Bwea, 2017.

20. 松田素二「アフリカ史の可能性」佐藤卓己編『岩波講座現代5巻 歴史の揺らぎと再編』2015, pp.175-202, 岩波書店.

21. 松田素二編著『アフリカ社会を学ぶ人のために』2014, 世界思想社.

22. 池谷和信 2017『狩猟採集民からみた地球環境史—自然・隣人・文明との共生』東京大学出版会, 2017.

23. Ikeya Kazunobu & R. K. Hitchcock eds., *Hunter-Gatherers and their Neighbors in Asia, Africa, and South America*, *Senri Ethnological Studies* 94, National Museum of Ethnology, 2016.

24. 池谷和信「近年における歴史生態学の展開——世界最大の熱帯林アマゾンと人」水島司編『環境に挑む歴史学』勉誠出版, 2016, pp.43-54.

〔産業財産権〕

○出願状況 (計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

○取得状況 (計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

国際会議の組織及び実施

1. Takezawa Shoichiro, *Colloque International sur l'histoire africaine*, Université de Bruxelles, 30/11/2015.

2. 北川勝彦「アフリカと日本の教育研究交流の新基軸を考える」TICADVI 連携国際シンポジウム (関西大学経済学部・同研究科主催、サントリー文化財団後援) 02/06/2016, 関西大学千里山キャンパス第2学舎1号館.

3. Kitagawa Katsuhiko, *International Sym*

*posium: Africa and Asia Entanglements in Past and Present: Bridging History and Development Studies*, Kansai University, Senriyama Campus, 31/07-01/08/2015.

4. 坂井信三「西アフリカのイスラームと人種表象」(「イスラームとヨーロッパ・アフリカ」、第13回日韓歴史家会議 (世界史の中のイスラーム), 27/10/2013, ソウル, 東北亜歴史財団).

6. 研究組織

(1) 研究代表者

竹沢 尚一郎 (Takezawa Shoichiro)

国立民族学博物館・民族文化研究部・教授  
研究者番号：10183063

(2) 研究分担者

北川 勝彦 (Kitagawa Katsuhiko)

関西大学・経済学部・教授  
研究者番号：50132329

坂井 信三 (Sakai Sinzo)

南山大学・人文学部・教授  
研究者番号：00140012

杉村 和彦 (Sugimura Kazuhiko)

福井県立大学・学術教養センター・教授  
研究者番号：40211982

大稔 哲也 (Otoshi Tetsuya)

早稲田大学・文学学術院・教授  
研究者番号：10261687

鈴木 英明 (Suzuki Hideaki)

長崎大学・多文化社会学部・准教授  
研究者番号：80626317

(3) 連携研究者

松田 素二 (Matsuda Motoji)

京都大学・大学院人文科学研究科・教授  
研究者番号：50173852

武内 進一 (Takeuchi Shin'ichi)

アジア経済研究所・主任研究員  
研究者番号：60450459

高宮 いずみ (Takamiya Izumi)

近畿大学・文芸学部・教授  
研究者番号：70221512

池谷 和信 (Ikeya Kazunobu)

国立民族学博物館・民族文化研究部・教授  
研究者番号：10211723  
期間 (H26-H27)

(4) 研究協力者

宮治 美江子 (Miyaji Mieko)

東京国際大学・名誉教授  
研究者番号：40239405

富永 智津子 (Tominaga Chizuko)  
宮城学院女子大学・キリスト教文化研究  
所・研究員  
研究者番号：90217547